



「後期後半の計」

校長 仙北谷 仁策

平成29年がスタートしました。あけましておめでとうございます。旧年中は、保護者、地域の皆様には大変お世話になりました。本年も昨年同様、どうぞよろしくお祈りします。

さて、本日からいよいよ後期後半の始まりです。今までに身に付けた力を「高める期間」となります。同時に次の学年（6年生であれば中学校）への「準備する期間」でもあります。昔からよく言われる「一年の計は元旦にあり」ではないですが、児童のみなさん、「後期後半の計」を立ててみてはどうですか。

学習面で言えば、これまでを振り返り、自分の苦手なことに再チャレンジするのもいいでしょう。もちろん得意なことを更に頑張ってみるのもいいですね。「漢字」「計算」といった具体的なものだけでなく、「人の話を集中して聞く」「自分の考えをすすんで発表する」といった行動目標をもつことも大切です。

生活面で言えば、逆に、具体的な目標を立て、継続して取り組むことが考えられます。例えば「挨拶をする」とか「友達と仲良くする」といった目標ではなく、「毎朝5人以上の先生や友達に、自分から挨拶をする」とか「(天気のいい) 休み時間は、クラスの友達と一緒に外で遊ぶ」などにとしてみると、自分でも何を頑張ればいいのかがよく分かり、結果として達成することが容易になるのではと思います。

後期後半の3か月の登校日は52日と、とても短いですが（年間では206日、4・5年生のみ更に1日多い）。ですから、一日一日を大切にしてほしいと思います。

話はがらっと変わりますが、私はこの年末・年始にはどこも出かけずに、家でテレビを見ることが多い毎日でした（年末はちゃんと大掃除をしました！）。年末・年始特有のバラエティ番組も見ましたし、箱根駅伝などスポーツ観戦もしましたが、特にクイズ番組を好んで見ました。この時期に限らず、日頃テレビを見る機会があれば、我が家はクイズ番組を見ることが多いようです。

小学校や中学校で学ぶ内容のクイズ（常識クイズ？）もあれば、有名私立中学校の入試問題や漢字検定問題など、少々骨のある問題もあります。ジャンルや形式も実に様々で、各番組が趣向を凝らし、見ている方としても飽きないものとなっています。番組を見ながら、自分も出演者になったつもりで、「知っている」「できる」という思いや、「へえー、そうなんだ」「ああ、そうか」といった思いをもつことができます。

人は誰でも「できるようになりたい」「もっと分かるようになりたい」という「知的欲求」をもっています。特に子供のそれはとても強く、私たち大人は彼らの「知的欲求」を満たしてあげたいものです。

その意味で、学校はまさに「知的欲求」を満たす場所でなければなりません。教員はそのために授業を工夫したり、校内研究をとおして指導法の改善をしたりしています。

ですから、子供たちだけでなく、私たち教職員も「後期後半の計」をしっかりと立てたいと思います。今年度も残りわずかとなりましたが、精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしくお祈りします。

＜学校公開のお知らせ＞

1月21日（土）には本年度最後の学校公開を行います。当日はオリンピック・パラリンピック教育の一環としてブラインドサッカーの体験授業や校内書写展、昨年度同様に、日頃学校で行っている災害に対する安全指導の実際を見て、保護者・地域の方々にも参加していただく一斉下校訓練他、各学級で様々な取組を行います。多くの方のご来校、そしてご参加をお待ちしています。

